

Solan Dream Climbers

～夢に向かって一歩ずつ～

～ビオトーププロジェクト2023～



先週から、プロジェクト学習が始まりました。プロジェクトの学習では、子ども達が教科で学んだ知識や技能を活用して、協力しながら1つの課題解決に取り組んでいきます。この第1クォーターでは、学校内にあるビオトープの環境改善に取り組んでいます。「①水辺の生き物が、安全に過ごせるように学校の自然を生かし、生き物の立場に立ったビオトープを作る。②水辺の生き物が、できるだけ長く生きられる環境を見つけるために、ビオトープを観察して研究する。」が目的です。

第1回目の授業では、子ども達と「どんなビオトープにしていきたいか」という理想のビオトープ像について話し合いました。今年からSOLANの仲間になった新しい子もいたので、まずは昨年度どんな活動に取り組んで行ったのかを写真や動画で振り返りました。子どもたちからは「ああ、こんなことあったな！」「え！ビオトープができる前はこんなだったの！」との反応が。改めてこれまでの活動の積み重ねを思い出すことができました。その後は、どんなビオトープを作りたいか、みんなで話し合いました。「自然いっぱいのビオトープにしたい！」「自然豊かで、いろんな生き物に来てほしい！」という声がたくさん上がりました。



印象的だったのが「刈谷ふれ愛パークみたいな感じにしたんだよね」と一人の子が発言した後に、みんなが納得していたことでした。「泥だらけになって、嫌じゃなかったの？」と聞くと、「全然！むしろ自然いっぱい、いろんな生き物がいて、うれしかった。」と反応が。この学年は、これまで全身を使ってたくさん自然に親しんできました。初回の授業では、その自然豊かなことの良さを思い出せる時間になりました。



その後の第2回目の授業では、プロジェクトの目的を確認して、現状のビオトープを多面的に見て問題点を見つける活動に取り組みました。問題点を探すこときっかけとなったのは、「本当に僕らはビオトープを改善できるのだろうか。」という発言でした。まずは現状を見ないと解決ができない！そう話し合っ、今の SOLANのビオトープを見るために、少し雨が降っていましたが傘を持って出発！子ども達は、水、生き物、草、土などの複数の視点で観察しました。実際に土を掘り起こすと、水中からなんともいえないにおいが・・・子ども達はポーン図に、問題点として「水がにごっている」「水がくさい」「生き物がすくない」「クローバーが多くてバッタが来ないんじゃないか」などの問題を挙げていました。

今回の授業では、「ビオトープの生き物の立場にどこ

まで人間が寄り添えるのか」ということを考えました。生き物の立場に立って、住みやすい環境を人間が作るのが大前提のもと、どこまで人間が生き物に寄り添えるのだろうと、立ち止まってみんなで話し合いました。もちろんその場で結論は出ませんでした。自然と私たち人間の関係性について考えるきっかけの一つとなりました。次回は、ビオトープの問題点についてグループで整理していきたいと思います。子ども達が活動に没頭しつつ日常の学びを活かせるよう、教師側でサポートをしたいと思います。



